俳句の可能性（1）

宇多 喜代子

A　どの子にも涼しく風の吹く日かな　　飯田龍太

（中略）

俳句が散文や報道記事などと違うのは、省略されている部分を、読む人の自由な解釈で補って鑑賞できるというところである。この句を読んで、「どの子にも」とは自分のことだ、と思う人もあるだろうし、校庭の木陰でクラスメイトとくつろいでいるときのことだと思う人もあるだろう。幼児の頃、海辺で遊んだ体験を思い出す人もあるだろう。

そんな想像をかきたてる個々別々の言葉を一つにつないでいるのが、五・七・五という「定型」と、「涼し」という夏を表す言葉、すなわち「季語」である。詳しい説明を省略する俳句には、一句の柱となる言葉に「季語」を用い、それを五・七・五という「定型」で表現するという基本的な約束がある。この約束を「有季定型」といい、俳句という韻文を支える大きな力となっている。「涼し」が夏の季語であることを知るには「歳時記」を繰ればよい。

俳句の基礎知識

●定型・季語

俳句は**五・七・五**の十七音からなり、それぞれ上五・中七・下五という。定型より音数が多いものを字余り、少ないものを**字足らず**という。俳句には季節を表す語である季語を詠み込む。

（季語の例）

・春……梅、桜、たんぽぽ　　・夏…梅雨、五月雨、若葉
・秋……名月、天の川、鈴虫　　・冬…雪、時雨、大根
・新年…初春、門松

季語を詠み込む、五・七・五の定型で詠む、という俳句の決まりごとを**有季定型**という。これに対して、季語のない俳句を**無季俳句**、自由な音律の俳句を**自由律俳句**という。

●切れ字・句切れ

「や・かな・けり」など、句の切れ目を示す言葉を切れ字という。切れ字は、感動の中心を表したり、句に余情をもたせたりする働きもある。一句の中での言葉や意味の切れ目を句切れという。切れ字や、その他の言い切りの表現があるところなどに句切れがある。

・初句切れ…五／七・五　　・二句切れ…五・七／五
・中間切れ…中七の途中で切れる　　などがある。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) **A**の句の季語が表す季節を「春・夏・秋・冬」の中から答えなさい。 〔　　〕

(2) **A**の句に含まれる切れ字を答えなさい。 〔　　〕

(3) 季語を用い、五・七・五の定型で表現するという俳句の決まりを何というか。本文中から書きぬきなさい。 〔　　〕

(4) 俳句は韻文と散文のどちらに分類されるか。本文に合うほうを選び、記号で答えなさい。

ア 韻文　**イ** 散文 〔　　〕

(5) 次の①～④の季語が表す季節を、「春・夏・秋・冬」の中からそれぞれ答えなさい。

①こおろぎ 〔　　〕　②桜 〔　　〕

③蟬 〔　　〕　④蜜柑 〔　　〕